



対ガンビア食糧援助に関する署名式



カーボベルデ大学ミンデロ校への医療指導用機材の引渡式
(草の根・人間の安全保障無償資金協力)

皆様いかがお過ごしでしょうか。

コロナ対策と外交活動の両立のため、当館でも工夫と努力をしています。

当地からお隣の三か国を担当していますが、今は多くの制約があり、これら兼轄国に出張するのが容易ではありません。

このため、遠隔技術を使うなどして多くの活動を行っています。

最近の例をいくつかご紹介いたします。

カーボベルデの首都プライアで、我が国の有償資金協力「送配電システム整備事業」（借款金額約62億円）の完工式が開催されました。本事業は、カーボベルデ6島（サンタタオ島、サンビンセンテ島、サル島、マイオ島、サンティアゴ島及びフォゴ島）における電力供給の安定化及び電力へのアクセス改善を図ることが目的です。コレイア・エ・シルヴァ首相をはじめとするカーボベルデ関係者が出席しました。当館とオンラインで結び、祝辞を述べました。当地にいるカーボベルデ大使、JICAダカール事務所所長も出席しました。

また、同じプライアにおいて、カーボベルデ大学ミンデロ校への医療指導用機材の引渡式も行われました。この機材は、草の根・人間の安全保障無償資金協力「カーボベルデ大学ミンデロ校医療指導用機材整備計画」（供与金約1,000万円（76,275ユーロ））の枠組みにおいて調達されたものです。ミンデロは、カーボベルデの北部サンビンセンテ島にある町です。首都プライア、地方都市ミンデロ、当地ダカールの三箇所をオンラインで結んで引渡式を実施しました。当館からオンラインで祝意を述べました。この日本の協力により、カーボベルデ政府が新型コロナウイルス対策に取り組む中、同国における医療人材の質の向上と国民全体の健康改善を通し、人間の安全保障の強化につながることを期待されます。

もう一つの兼轄国ガンビアとは、二つの署名式を行いました。

一件は、令和元年度無償資金協力「地方飲料水給水計画」（15.91億円）に関する書簡の署名と交換です。通常はガンビアに出張して行うところを、当地にてダカール駐在のガンビア高等弁務官との間で署名を行いました。本事業により、地方村落において安全な水へのアクセス改善を図ることを通じて、ガンビアの持続的発展と基礎生活環境の改善に資することが期待されます。

もう一件は、令和2年度無償資金協力「食糧援助」（2.5億円）に関する書簡の交換です。ちょうどママドゥ・タンガラ外務・国際協力・在外ガンビア人大臣がセネガルを訪問した機会を活用しました。当館で大臣と署名式を執り行いました。日本はガンビアにおける食料安全保障の改善に取り組んできており、今回の食糧援助もその一環として行われるものです。この協力を通じて食糧及び栄養上のニーズのある人々に日本の政府米を供与することにより、新型コロナウイルスによるガンビア国民への影響が緩和され、ガンビアにおける食料安全保障の改善につながることを目指しています。

オンライン行事でも、コロナ対策を徹底して参加者全員がマスク着用です。これからも、種々の工夫をして活動を続けていきます。